

第2回 船坂まちづくり塾ニュースレター

平素は、西宮市行政にご理解、ご協力を頂き、ありがとうございます。

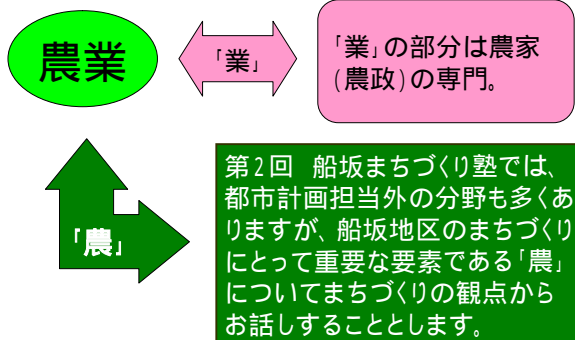
先日、船坂地区の皆様にお知らせしました「船坂まちづくり塾」について、その第2回目を2月21日(日)午前10時から11時30分まで、船坂公会堂において開催しました。当日は17名の皆様にご参加を頂き、「農」をテーマにまちづくりを考えてみました。このニュースレターは、第2回目の塾の内容を皆様にお知らせし、情報を共有するためにお配りするものです。

まちづくり塾の様子



はじめに

第2回 船坂まちづくり塾では、「農」をテーマに考えてみようと思います。



船坂地区は、農業を通じて地域が管理されてきた地域と考えています。でも少しずつ土地利用が変化しています。

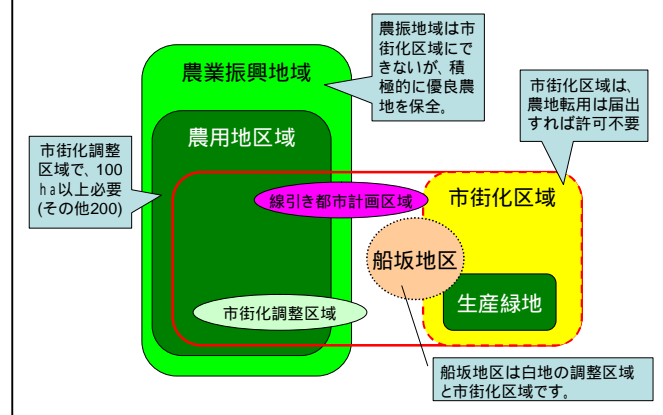
第2回塾は、農業の「農」の部分について、まちづくりの観点から考えて情報提供を行いました。船坂地区のまちづくりの重要な資源である「農」について皆さんと考えていきたいと思っています。

1. 農地の違いについて

市街化区域内の土地と同じように農地にも色々な位置づけがあり、違いがあります。

農振法に位置づけられた農業振興地域内の農用地区域の農地は農業施策とともに農地が厳しく保全され、また市街化区域内の生産緑地についても農地が保全されますが、それ以外の農地は、保全が困難です。船坂地区の農地は、農業振興地域以外の農地、市街化区域内農地、生産緑地があります。

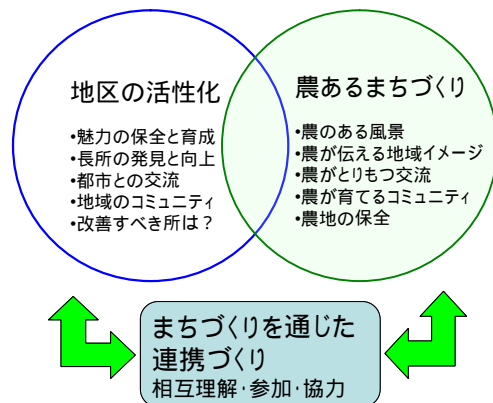
農振法と都市計画法による土地利用区分



2. 船坂地区の農地と景観の確認

1. 船坂地区の美しい景観は、里山と農地が主役である。
2. 農業景観は、気候風土に育まれた地域性のある景観である。
3. 美しい農地は、これを観光やまちづくりの資源とすることも考えられる。
4. 農業の「業」の部分は農家の領域であるが「農」の部分で都市住民や地区住民も関わることがある。
5. 景観政策で必要なものは、「見る対象（視対象）」と「見る場所（視点場）」であり、両者が揃って初めて効果を発揮する。棚田なども見る場所が重要。

船坂にとって「農」は「住」とともに大切な要素



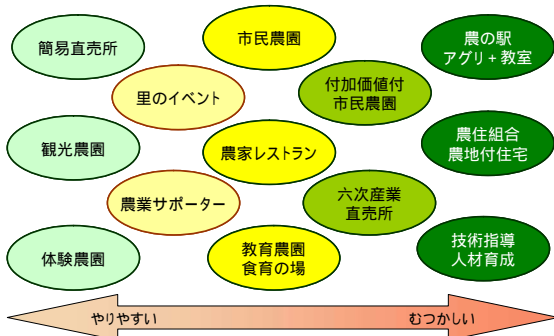
3. 農を資源としてどう活かすか

左下の図は、「農」を資源とする活動について、思いつくものを書いたものです。

1人でできるものは、比較的やりやすいと思いますが、合同での取り組みや負担の大小、法的な問題をクリアしないとイケないものなど、様々なものがあります。体力や地区の将来像を考えて無理のない範囲で考えてみましょう。

「農」を資源としてどう活かすか...

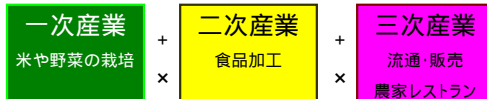
「農」を通じた交流やコミュニティづくりも多面的機能のひとつ



六次産業とは

儲かる農業や漁業として注目されている産業形態です。

農産物の生産から加工、販売を一体的に行うもので、体験交流などを組み合わせた事例もあります。



$$1 + 2 + 3 = 6$$

$$1 \times 2 \times 3 = 6 \text{ かけてもたしても6になります。}$$

余談（関アジ・関サバのはなし）

大分県の佐賀関漁港で水揚げされた鰯や鯖はブランド化され高価で販売されています。同じ漁場で採れた鰯や鯖も他の漁港で水揚げされたものには、高価な値段はつきません。これは商標登録やマスコミなどの活用、なぜ美味しいのかという説明が十分なされ、品質管理が行われているからです。

😊 名産品・特産品のブランド化のはなし

関アジ・関サバ

大分県の佐賀関漁港で水揚げされたアジやサバは、関アジ、関サバとして商標登録され、高額（サバは2匹で¥7,350-）で販売されています。



マスコミなどの活用となぜ美味しいのかという説明がこれでもかとされています。

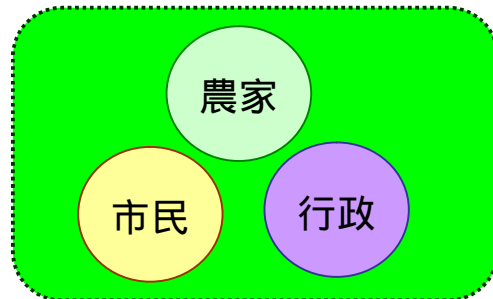
系群
一本釣り
漁場環境
瀬付き魚
流通

4. 立場の違いによる農地保全に関する課題、ニーズ

都市農地や農地について、農家、市民、行政といった立場で、保全の意識や課題などの考え方が異なります。それぞれの立場で農地を捉えてみることも「農」を活かしたまちづくりには必要と思います。

市民の立場

都市農地の保全意向が高い。
新鮮・安全・安心な農産物生産を期待している。
農産物の直売・地元購入希望等
地産地消ニーズが高い。
援農・農作業ニーズがある。
農のある暮らしへのニーズがある。



農家の立場

都市農地の保全意識が低い、または個々の農家で保全意向が異なる。
高齢化、後継者不足。
農業収益の低下により営農意欲が減退。
均分相続による農地の細分化。
固定資産税、相続税が高額。
営農環境が悪化 など

行政の立場

国の政策上市街化区域内農地（生産緑地除く）の保全が位置づけられていない。
都市農地保全のための制度が少ない。
市街化調整区域でもまとまった優良農地以外は、農業振興や農地の保全策が少ない。
行政内部組織の連携調整が不備。
自治体により農地の保全の取組みが異なる。

参考（農業サポーター制度について）

農業サポーター制度について

農作業も農家と都市住民では、捉え方が違います。

農家が嫌がる農作業も都市住民の一部はレクリエーション！

農家の視点	都市側住民の視点
農家の実情 ・後継者不足 ・高齢化 ・きつい、しんどい ・農地保全の必要性 (納税猶予・生産緑地)	都市住民の希望 ・農作業体験 ・自然とのふれあい ・農地保全意識 ・就農意欲 ・安心安全な農産物

箕面市や新潟市など全国各地で農業サポーター制度が導入され、多くの方が登録されています。

農業サポーター制度とは、営農を支援するため、農作業の手伝いを希望する農家と農作業に興味のある都市住民を結びつけ、農家と都市住民の健康的な活動を応援する取り組みです。

いま「農」がブーム

地産地消や食の安全面、自然とのふれあいなどで今「農」がブームとなっています。スポーツクラブ感覚の付加価値付貸し農園や援農（農業サポーター）など様々な取組みが進んでいます。



5. 「農」を活かした活性化の事例、話題の提供

財団法人都市農地活用センターから出版されている「農を生かした都市づくり」などに掲載されていた事例と、鷲林寺地区での付加価値付貸し農園等について情報提供を行いました。

農を活かした活性化の事例その1

秋津野ガルテン (和歌山県田辺市)

農業法人(株)秋津野:地域住民が出資
地域交流と地域ビジネスの拠点
(体験交流、農家レストラン、宿泊等)
直売所「きてら」との連携

あぐりん村 (愛知県長久手町)

町の「長久手田園バレー構想」
出荷者組織「市・ごらっせの会」
JA販売ルートに乗りにくい自給的農家の販売策確保(280人の農家)

彩の谷・たわわ (大阪府貝塚市)

公共施設「農業庭園」を地元の農事組合法人「奥貝塚・彩の谷」が管理運営
直売所、会員制市民農園、イベント
観光農園、体験農園

現地視察の感想

あぐりん村は、温浴施設とセットの大規模な施設です。スーパーで売っていないような野菜が中心に販売されていました。

彩の谷・たわわは、貸し農園を中心とした施設でそれぞれの農地に駐車場があり、車横付けで農作業が行えるもので、農園は満杯状況でした。

以上、現地視察を行ったコンサルタントからの説明

農を活かした活性化の事例その2

みずほの村市場 (茨城県つくば市)

(株)農業法人みずほ
直売所 = 安売りではなく適正価格重視
品質重視の消費者に的を絞る。
値段より生産方法や味にこだわる。
蕎麦屋やひまわり園等のイベントも実施

農業体験農園 (東京都練馬区)

大泉 風のがっこう
農家が年間計画や指導を行い主体となる。(生産緑地法や納税猶予可能)
地域の食育教育にも貢献。
実利と地域住民との交流が期待できる。

農菜園付住宅 (神奈川県横浜市など)

建物譲渡特約付き定期借地権分譲など
農作業に関心がある人たちが農地を囲んで暮らす、コミュニティの価値を重視した住宅
共同購入や共同利用、農作業の指導

鷲林寺地区農家の取り組み(農地を守る方法の一つ、農業をサービス業に)個人経営の貸し農園を開設し、様々なサービスを提供しています。

信頼の柱、営農指導・・・管理人常駐(水遣り・雑草)
コミュニケーションづくり・・・イベント、昆虫採集
便利で快適な環境づくり・・・トイレ、駐車場、農機具
細かい配慮・・・肥料、苗の小分け販売(馬糞堆肥)